

2012年度 修士論文

東日本大震災がスポーツイベントに与えた損害に関
する調査

**Influence of The Great East Japan Earthquake
on Sports**

早稲田大学 大学院スポーツ科学研究科
スポーツ科学専攻 スポーツビジネス研究領域

5011A064-5

原 章展

Akinobu Hara

研究指導教員： 平田 竹男 教授

目次

第1章 序論	4
第1節 研究背景と先行研究	4
第2節 研究目的	5
第2章 研究手法	6
第3章 結果	7
第1節 スタジアム、練習場等の破損	7
第2節 中止・延期となったスポーツイベント	9
第1項 ゴルフ	9
第2項 サッカー	10
第3項 野球	14
第4項 フィギュアスケート	14
第5項 バレーボール	15
第6項 マラソン	15
第7項 バスケットボール	16
第8項 競馬	16
第9項 競輪	18
第10項 競艇	18
第3節 外国人選手の帰国	18
第4節 被災地支援、復興計画とスポーツ	20
第5節 結果のまとめ	23
第4章 考察	26
第1節 普及	26
第2節 資金	26
第3節 勝利	27
第4節 スポーツの力	27
謝辞	31
参考文献	32

図表目次

図 1	スタジアム、練習場に被害を受けたクラブ、競馬場.....	8
図 2	鹿島アントラーズのホームゲーム国立開催、カシマスタジアム開催の平均観客数.....	11
図 3	水戸ホーリーホックの震災後の最大収容人数とホーム年間平均観客数	12
図 4	ナビスコ杯トーナメント表.....	13
表 1	女子ゴルフツアー中止大会観客動員数とチケット収入.....	9
表 2	女子ゴルフツアー中止 4 大会予定放送日時と放送局.....	10
表 3	中山競馬場の震災後のスケジュール	16
表 4	JRA 馬券売上前年度比較.....	17
表 5	震災を理由に退団した外国人選手.....	19
表 6	中止・延期したスポーツイベント.....	23

第1章 序論

第1節 研究背景と先行研究

2011年3月11日14時46分頃、東北地方から関東地方にかけてマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、未曾有の人的及び物的被害が発生した。警察庁緊急災害警備本部は2012年12月26日の時点で人的被害が死者15,879人、警察に届出があった行方不明者2,712人、負傷者が6,126人、建物被害に関しては全壊129,724戸、半壊267,666戸と発表している。日本国内で起きた自然災害で死者・行方不明者の合計が1万人を超えたのは戦後初めてであり、死者数や破壊家屋等の被害は太平洋戦争以来の被害規模である。

日本政府は2011年3月23日に、3月11日の東日本大震災で損壊した設備や道路などの直接的な被害額を16兆～25兆円とする試算をまとめた。そして、2011年6月24日に、内閣府は東日本大震災における被害額の推計として、建築物等が約10兆4千億円、ライフライン施設が約1兆3千億円、社会基盤施設が約2兆2千億円、農林水産関係が約1兆9千億円、その他の公共施設等が約1兆1千億円で総計16兆9千億円にものぼると発表した。これは、阪神・淡路大震災の約10兆円を上回る戦後最大の自然災害となる。東京電力の福島第1原子力発電所の事故や計画停電の影響を含んでおらず、被害額はさらに膨らむ見通しだ。また、計画停電、自粛ムードの影響もあり経済活動が停滞することも予想されている。

一方、日本のスポーツにおいては、テレビ、新聞、雑誌等のメディアによって、全国各地の様々なスポーツイベントの中止及び延期が報道されている。このような震災によるスポーツイベントの中止及び延期は、各競技団体の収入減少やスポーツチームの経営悪化だけでなく、各スポーツ競技の普及や強化の観点からも悪影響があるのではないかと考えられる。

これまでの研究では、地震により企業の受ける間接的な損害について分析した佐伯¹⁾、巨大地震災害時の交通施設の機能低下に起因する社会経済損失の軽量化に関する研究を行なった土屋ら²⁾、兵庫県南部地震における東灘区建物の損害額評価を行なった高橋ら³⁾などの論文が存在している。また、1994年にアメリカのカリフォルニア州で発生したノースリッジ地震による経済損失と、その後3年間での各種イベント活動について分析したEguchiら⁴⁾のなどの論文も存在している。

長塚(2012)では東日本大震災後の被災地支援活動の一つとして福島県立相馬高校で行なわれた部活指導をモデルとして、トップアスリートが被災地の子どもたちに継続的に指導することによる、子ども及び、アスリート自身への影響を明らかにしている。この研究ではトップアスリートが直接、継続的指導を行うことで被災地の子どもたちの無力感の軽減に繋がり、指導を受けた高校生、指導を行なったアスリート共に競技成績の

向上だけでなく、大きな心理的変化があったことが証明されていた。また、災害発生直後の、スポーツ界全体からの様々な支援についても記述されており、募金やチャリティイベント、オークション等の「資金援助」、救援物資や食糧・燃料、その他の生活必需品等を送る「物資提供」、アスリートの被災地訪問、ボランティア活動等の「人的支援」と主な貢献は大きく分けて3つに分かれると述べられている。

以上のように、地震による経済的な損失に関する研究やトップアスリートによる被災地への継続的支援活動に関する研究はされているものの、大規模地震被害におけるスポーツイベントの中止及び延期の事例研究は十分ではなく、また、スポーツイベントの中止及び延期による損害を明らかにした研究は存在しない。

第2節 研究目的

そこで本研究では、東日本大震災による試合、代表選考会、記録会などを含むスポーツイベントの中止及び延期の事例を整理し、その際にスポーツが被った損害について明らかにすることを目的とする。

第2章 研究手法

上記の研究目的を達成するため、本研究では、文献及び記事調査、また各競技団体のホームページからの情報収集によって、中止及び延期になったスポーツイベントを明らかにした。また、スポーツイベントが中止及び延期になったことによる経済的損失の算定方法としては、可能な限り昨年以前のデータを収集し、該当競技に関して今年見込まれていた経済効果を推算した。本項で経済的損失を算出した競技は女子プロゴルフ、フィギュアスケート、競馬である。本研究では、各競技について、震災がなければ本来見込まれていた今年の入場料収入を経済的損失とした。具体的には、女子プロゴルフでは日本女子プロゴルフ協会ホームページ (<http://www.lpga.or.jp/>) から去年の入場者数を確認し、チケット料金より昨年度の入場料収入を算出した。フィギュアスケートでは、日本スケート連盟からの資料提供をもとに、代々木第一体育館で予定されていた ISU 世界フィギュアスケート選手権の入場料収入を調査した。競馬では、JRA オフィシャルサイト (<http://www.jra.go.jp/sitemap/index.html>) より、本年度のレースごとの馬券売上、昨年度の馬券売り上げデータもとに、今年見込まれていた入場料収入を推算した。

また、損害を受けたスタジアムやグラウンド等のスポーツ施設を抽出する際は、Jリーグ公式サイト (<http://www.j-league.or.jp/>)、bj リーグオフィシャルサイト、(<http://www.bj-league.com/bj/Top.do>)、JBL オフィシャルサイト (<http://www.jbl.or.jp/>)、Fリーグ公式サイト (<http://www.fleague.jp/>) のデータを使用した。サッカースタジアム及び練習場の修復に必要な費用に関しては、日本サッカー協会 HP (<http://www.jfa.or.jp/>) のデータをもとに抽出した。

本研究では、「損害」を東日本大震災による被害事象そのものと定義した。例えば、地震によってスタジアムが破損した事を例にとると、スタジアムが破損することは「損害」となる。一方、「損失」とは、「損害」の発生によって生じる具体的な目減りと定義した。例えば、時価1億円のスタジアムが全壊したとすると、このマイナス1億円が「損失」にあたる。

そのため、「スポーツイベントの中止及び延期事例を整理し、その際にスポーツが被った損害について明らかにすることを目的とする。」という研究目的は、上記の「損害」と「損失」の定義に則り、本研究は、サッカー、野球、ゴルフなどの各種スポーツ競技イベントが、地震の発生によって被った損害を明らかにした。

第3章 結果

第1節 スタジアム、練習場等の破損

図1がスタジアム、練習場に被害を受けたクラブ、競馬場である。このように、被災地の多くのスタジアム、練習場等に破損が見られた。この影響により、スタジアムでの開催が中止及び延期、開催地を変更してのホームゲームとなるクラブがあった。また、練習場が破損したクラブは、活動休止や他会場での練習等を余儀なくされた。

2011年4月30日に日本サッカー協会は地震や津波で被害を受けた全国のサッカー関連施設の修復費用が総額40億円に上るという概算を発表した。特に被害の大きかった鹿島アントラーズのホームスタジアムであるカシマスタジアムでは、応急処置として5億5000万円をかけて修繕作業を進め、6月には4万人収容の観客席のうち3万4千席が使えるようになった。総額5億5千万円の工事費は、県が3月25日に専決処分した2010年度一般会計補正予算のうち7千万円と、国の補正予算成立後の11年度一般会計補正予算4億8千万円で対応した。これはあくまでも応急処置であり、完全修復費用には22億円を要した。

また、修繕費用に関しては、サッカーくじを運営する日本スポーツ振興センターが、東日本大震災で被災したJリーグスタジアム等の緊急復旧のための自治体支援の方針を決定し、Jリーグスタジアムでは「ユアテックスタジアム仙台」「宮城スタジアム」「県立カシマサッカースタジアム」「ケーズデンキスタジアム水戸」「栃木県グリーンスタジアム」「NACK5スタジアム大宮」の5スタジアムに対し1施設1億円を上限に定額助成を行なった。また、2011年度の追加助成は数十億円規模となり、その他にも被災地で子供達を対象に行うスポーツを通じた支援活動に対し総額3億円の助成を行った。

いわき平競輪場ではバンクに多数の亀裂が生じ、メインスタンドのガラスが破損、取手競輪場ではバンクの一部に亀裂が生じ、場内の壁に損傷が見られた。松戸競輪場ではスプリンクラー故障と選手宿舍の水道管が破裂して浴室などが使用不能となる等の被害があった。また、サテライトかしま（福島県南相馬市）、サテライト宮城（宮城県柴田郡）、サテライト大和（宮城県黒川郡）では、被害状況を含めてまったく連絡が取れない状態が数日続いた。



図 1 スタジアム、練習場に被害を受けたクラブ、競馬場

第2節 中止・延期となったスポーツイベント

第1項 ゴルフ

女子ゴルフでは、3月11～13日のヨコハマタイヤ・プロギア杯、3月18～20日のTポイントレディース、4月1～3日のヤマハレディースオープン葛城、4月8～10のスタジオアリス女子オープンの4大会連続で中止となった。4月15日の西陣レディースからは開催が決まったものの、全34大会あった女子プロゴルフツアーが東日本大震災の影響で30大会となった。

ヨコハマタイヤ・プロギア杯は、大会初日の11日に東日本大震災が発生、高知県の会場には地震による影響はなく全選手ホールアウトすることができた。しかし、太平洋に面した土佐CCは津波警報の発生により、選手・関係者、ギャラリーも会場から海沿いの国道に出られず足止めとなった。出場選手の中には、東北地方にゆかりのある選手も多く、情報源はテレビしかない状況で不安な夜を過ごした。そして一夜明け、被害の甚大さを考慮したLPGA（日本女子プロゴルフ協会）は、大会の中止を発表した。

中止となった女子ツアー4大会に昨年と同じ観客が来場したと仮定すると、チケット収入だけで1億6239万9千円のチケット収入が入らなかったこととなる。また、それに加えて飲食物販などの収入も得られなかった。表1は女子プロゴルフツアー中止4大会観客動員とチケット収入をまとめたものである。

表1 女子ゴルフツアー中止大会観客動員数とチケット収入

大会名	開催日	一日目	二日目	最終日	合計
ヨコハマタイヤ・プロギア杯	3月11日～ 3月13日	2,010人 2000円	3,596人 3000円	4,589人 3000円	10,195人 2857万5千円
Tポイントレディース	3月18日～ 3月20日	3,341人 2000円	4,590人 2500円	7,503人 3000円	15,434人 4066万6千円
ヤマハレディースオープン	4月1日～ 4月3日	878人 2000円	5,550人 2000円	5,459人 2000円	11,887人 2377万4千円
スタジオアリス女子オープン	4月8日～ 4月10日	4,299人 3000円	10,567人 3000円	8,252人 3000円	23,118人 6935万4千円

また、中止となった4大会はいずれも全国ネットでのテレビ放送が決まっており、放映権料の損失、見る機会の損失があった。表2は女子ゴルフツアー中止4大会予定放送日時と放送局をまとめたものである。

表2 女子ゴルフツアー中止4大会予定放送日時と放送局

大会名	放送日時	放送局
ヨコハマタイヤ・プロギア杯	3/12(土) 16:00~17:15 3/13(日) 16:00~17:15	テレビ東京系列 6局ネット BS-JAPAN RKC高知放送
Tポイントレディス	3月19日(土) 16:00~16:55 3月20日(日) 16:00~17:25	テレビ朝日系列 24局ネット BS朝日 スカイ・A
ヤマハレディースオープン	4月2日(土) 14:00~15:55 4月3日(日) 14:00~15:25	テレビ朝日系全国ネット BS朝日 スカイ・A ゴルフネットワーク
スタジオアリス女子オープン	4月10日(土) 16:00~16:55 4月11日(日) 15:00~16:25	読売テレビ・日本テレビ系列 全国28局ネット他

シニアツアーのひとつであるHANDA CUPが、東日本大震災により主催者の関連事業所が多大な被害を受けたために中止となった。これによって、全9大会あったシニアツアーが全8大会となった。男子ツアーは4月14日開幕戦の東建ホームメイト杯から予定通り開催されている。

第2項 サッカー

J1では、当初3月12,13日から4月16,17日に予定されていた第2節から第6節までが、本来南米選手権(コパアメリカ)出場のため中断期間となっていた6月4日から8月28日に延期となった。また、J2も3月12,13日に予定されていた第2節から第6節までが9月以降に延期となった。

各クラブへの影響に関しては、鹿島アントラーズ、ベガルタ仙台、水戸ホーリーホックの3クラブはホームスタジアム、練習場に損壊が見られた。鹿島アントラーズはJリーグとACLの日時が変更になっただけでなく、Jリーグ第7節、ACL第2節、第4節の開催がカシマスタジアムから国立競技場に変更となった。ホームゲーム国立競技場開催

時とホームゲームカシマスタジアム開催時の平均観客動員数を比べると、国立競技場開催時の平均観客動員数の方が1万人以上も観客が多い。図2は、鹿島アントラーズのホームゲーム国立開催、カシマ開催の平均観客数を棒グラフで比較したものである。

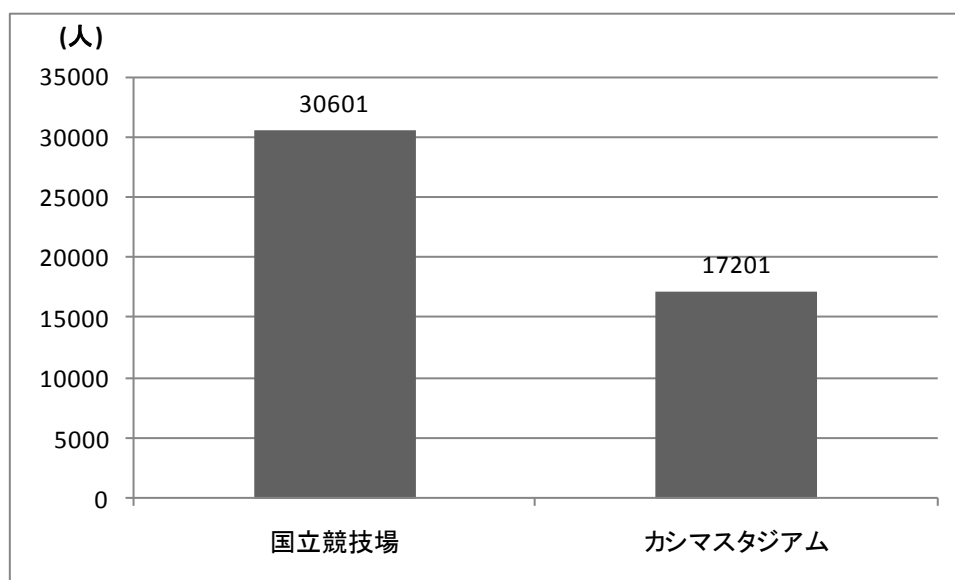


図2 鹿島アントラーズのホームゲーム国立開催、カシマスタジアム開催の平均観客数

水戸ホーリーホックは、4月23日J2第8節以降のホームゲームでスタジアムの使用を一部制限し開催することとなった。一部制限することにより、最大収容人数が約12,000人から約4,600人となる。しかし、水戸ホーリーホックのホーム平均観客動員数で4,600人を超えた年は無く、最大収容人数を制限されたスタジアムでもチケット収入や会場内物販収入が減少することは無いという傾向が伺える。図3は水戸ホーリーホックの震災後最大収容人数と年間平均観客数を折れ線グラフで比較したものである。

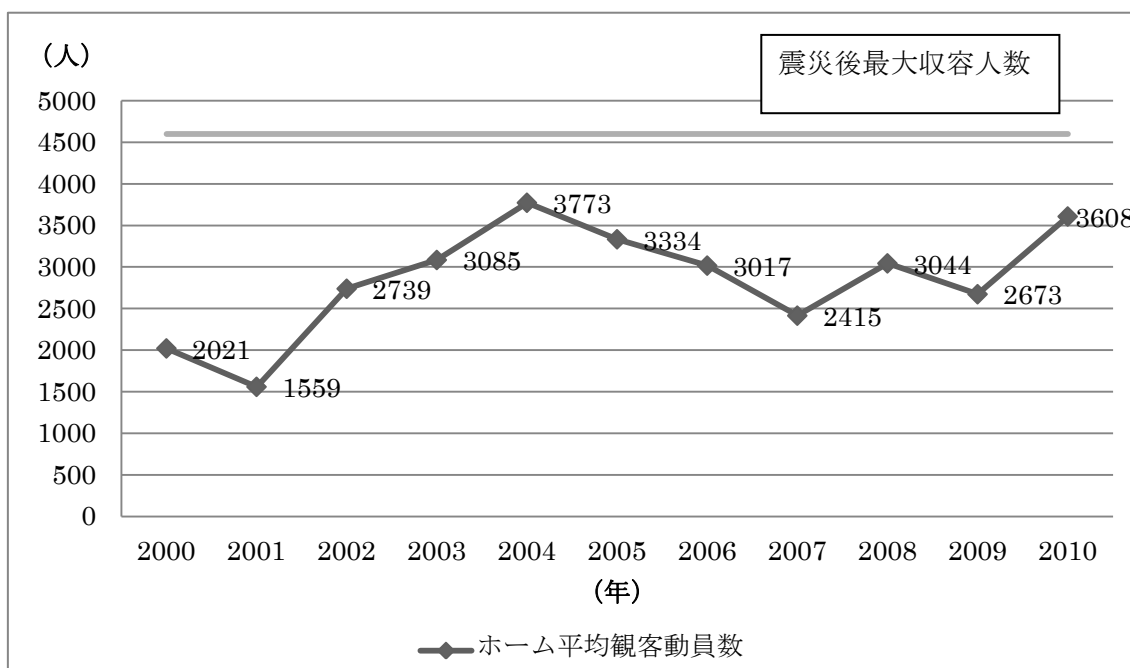


図 3 水戸ホーリーホックの震災後の最大収容人数とホーム年間平均観客数

ベガルタ仙台は、練習場とホームスタジアムであるユアテックスタジアムに損壊が見られ4月3日から4月22日まで、市原市やレッズランドなどでキャンプが行われた。

ナビスコ杯では、予選グループリーグから勝ち上がったクラブがシードとなっているACL参加4クラブと決勝トーナメントを戦う方式であったが、震災の影響で予選グループリーグを無くし、全18クラブによる決勝トーナメントとなった。これにより、予選グループリーグ42試合と決勝トーナメント21試合の合計53試合が行われる予定だったのが、トーナメント方式のみで全27試合となった。図4は、改定後のナビスコ杯トーナメント表である。

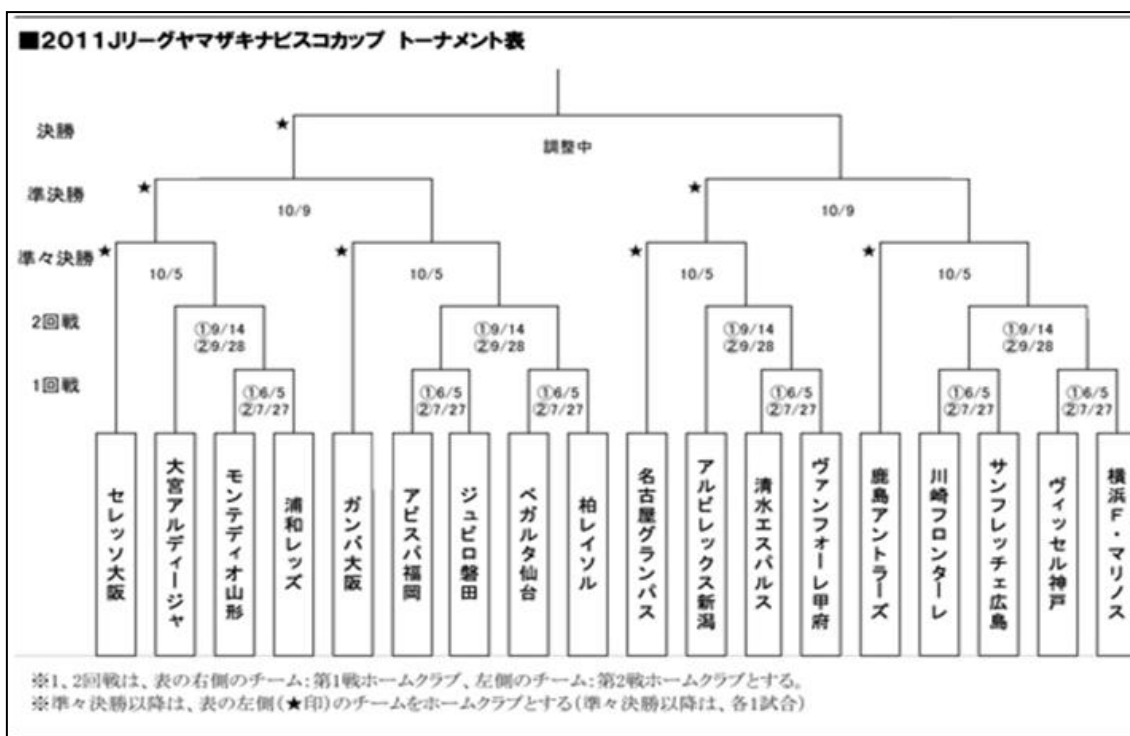


図 4 ナビスコ杯トーナメント表
 出典：Jリーグオフィシャルサイト

日本代表は3月25日、3月29日に開催予定であったキリンチャレンジカップ・モンテネグロ戦、ニュージーランド戦が中止となった。中止に伴い開催された「東北太平洋沖地震復興支援チャリティーマッチ」では大阪・長居スタジアムに40,613人もの観客を動員し、日本テレビ系列で全国中継、150ヶ国以上で生中継された。視聴率は関東地区で平均22.5%、最高26.5%を記録し、仙台地区では平均25.4%、最高30.1%を記録した。試合会場や事前の一般公開練習などで復興支援のための募金活動を行い、結果、総額22,317,199円の義援金が集めることができた。

また、2011年度のJ1全18クラブの合計当期純利益はマイナス3億6300万円、J2全20クラブの合計当期純利益はマイナス1億7800万円となっている。中でも入場料収入は1クラブ当たりJ1が11%のマイナス、J2が2%のマイナス、Jリーグ分配金は1クラブ当たりJ1が21%のマイナス、J2が8%のマイナスと大きく震災の影響を受けていると言える。特筆すべきは鹿島アントラーズで、当期純損失が2億2000万円と5期ぶりの赤字を計上した。営業収入は前期比3億100万円減の41億6500万円。入場者数はリーグ・ホーム戦1試合平均で約4800人減少し、入場収入が1億2500万円と大きく減ったことも響いている。また、販売売り上げも1億1千万円落ち込んだほか、クラブハウスや練習グラウンドなどが被災し、補修復旧費用として4600万円の特別損失を計上している。

第3項 野球

プロ野球の開幕はセパ・リーグ共に3月25日から4月12日に延期となったことにより、クライマックスシリーズは10月29日に延期となり、10月29日に予定されていた日本シリーズは11月12日に延期となった。

東北楽天ゴールデンイーグルスはKスタ宮城での開催を4月29日からとし、それまでの主催ゲームを甲子園球場と、ほっともっとスタジアム神戸で行うこととした。

また、電力不足を考慮し、4月中は東京電力・東北電力管内の球場での試合は全てゲームとなった。加えて、読売ジャイアンツは4月中の試合を東京ドームで行わないこととした。

ルールに関しても電力不足を考慮し、延長戦は3時間30分を過ぎて新しいイニングに入らず、最長でも12回までしか行わないことと変更になった。

第4項 フィギュアスケート

代々木第一体育館で3月21日～27日まで開催予定であったISU世界フィギュアスケ

ート選手権はモスクワでの代替開催となった。この大会では浅田真央とキム・ヨナがオリンピック後初めて揃って出場する、村上佳菜子のシニアデビュー大会である等、日本のスポーツファンの注目度が高かった。およそ 1 万枚ものチケットが 7 日間連続で売り切れになっており、そのチケット収入は約 5 億 8000 万円が見込まれていた。

また、代々木体育館での大会をゴールデンタイムで放送することを予定していたフジテレビは、代替大会となったモスクワ大会でもゴールデンタイムでの放送を決定した。スポンサーもゴールデンタイムに看板や CM が映るということでそのままモスクワ大会にも同様に付くこととなった。放映権料は東京大会で払われたお金と同額が支払われるため、放映権収入の損失はない。

また、2011 年に横浜で開催予定であった世界フィギュアスケート国別対抗戦も中止となった。

第 5 項 バレーボール

男子バレー「ワールドリーグ」の 1 次リーグ 6 試合の国内開催が、福島第 1 原発事故の影響で中止となった。欧州各国の連盟が原発事故の影響を懸念したことを受け、日本協会と国際バレーボール連盟が協議して決定した。埼玉で 6 月 11、12 日に行われる予定であったのドイツ戦、長崎で 18、19 日に行われる予定であったのロシア戦、和歌山で行われる予定であった 25、26 日のブルガリア戦が、いずれも同じ日程で、対戦相手国での開催になった。

また、V リーグは 3 月 12、13 日と 3 月 19、20 日の全試合を中止、3 月 25 日～4 月 10 日のプレミアリーグ男女ファイナルラウンドを中止 とした。

第 6 項 マラソン

日本陸上連盟は 3 月 13 日に行われる予定であった名古屋国際女子マラソンを東日本大震災の影響で中止とした。この大会は 2011 年 8 月の世界陸上テグ大会の女子マラソン日本代表選考レースであったため、4 月 17 日の長野マラソンを代替レースとすることが決まっていたが、長野マラソンも中止となることが決定した。これは、愛知県や長野県から被災地への救援活動に参加している関係者も多く、警備態勢などに不安があると判断したためである。4 月 10 日のテグ国際マラソン、4 月 17 日のロンドン国際マラソン、4 月 18 日のボストン国際マラソンを代替レースとして、それぞれ 5 名、9 名、1 名の選手の参加が決定している。代表選考結果は 4 月 20 日に発表される。

また、市民マラソンでは、全国で 59 大会が中止、3 大会が延期となった。

第7項 バスケットボール

3月11、12、13日に開催のJBL、JBL2の全試合と、それ以降の全試合の中止を決定した。これにより、順位が不確定のままシーズンが終了した。

また、プロバスケットリーグであるbjリーグも3月12、13日は全試合中止、4月中旬までの試合を中止とした。仙台89ERS、埼玉ブロンコス、東京アパッチはしばらくの間の活動を休止することとなった。特に、仙台89ERSは入場料収入がなくなり資金繰りが悪化したため全12選手とヘッドコーチを契約解除とした。

第8項 競馬

3月12、13日に予定されていた福島競馬場と阪神競馬場のレースは中止となった。小倉競馬場でのレースは4月16、17日まで中止となった。また、競馬場に損壊の見られた中山競馬場は4月中の開催は中止となった。福島競馬場でのレースは、早くても10月22日となっている。表3は中山競馬場の震災後のスケジュールである。

表3 中山競馬場の震災後のスケジュール

1月	5(水)	8(土)	9(日)	10(祝)	15(土)	16(日)	22(土)	23(日)	
2月	26(土)	27(日)							
3月	5(土)	6(日)	中止 12(土)	中止 13(日)	中止 19(土)	中止 20(日)	中止 21(祝)	中止 26(土)	中止 27(日)
4月	中止 2(土)	中止 3(日)	中止 9(土)	中止 10(日)	中止 16(土)	中止 17(日)			
9月	10(土)	11(日)	17(土)	18(日)	24(土)	25(日)			
10月	1(土)	2(日)							
12月	3(土)	4(日)	10(土)	11(日)	17(土)	18(日)	24(土)	25(日)	

東日本大震災の影響により売上が大幅に減少した。その理由として、馬券を買う場の減少が挙げられる。東北、関東圏での場外馬券場が閉まっており、もともと東日本での売上が全体の約6割であったことから売上が減少する。また、携帯電話からの購入が中止となり、パソコンによるインターネット購入のみとなった。携帯での馬券購入者が全体の4分の1であることから影響の大きさが伺える。表4はJRA馬券売上の前年度との比較である。

表 4 JRA 馬券売上前年度比較

開催日 開催日	売上（億円）	前年度売上（億円）	前年度比（億円）
3月12日	0（中止）	194	-194
3月13日	0（中止）	225	-225
3月19日	72	192	-120
3月20日	114	264	-150
3月21日 ※特別開催	76	0（開催無し）	76
3月26日	98	199	-101
3月27日	170	315	-144
合計	530	1389	-876

第9項 競輪

京王閣、平塚競輪は4月1, 2, 3日の開催を中止、宇都宮競輪は4月2, 3, 4日の開催を中止、いわき平競輪、小田原競輪、前橋競輪、千葉競輪は4月中の開催を中止、取手競輪は6月いっぱいまでの開催を中止している。

また、2011年4月15日にJKAは、幹旋確保が困難になったとして、当年の外国人短期登録選手の来日を中止することを決定した。

第10項 競艇

24つの競艇場が3月中のレースを中止した。また、被害の大きかった戸田競艇場は4月16日からの再開が決まり、桐生競艇場は5月3日からの再開が決まっている。

また、電力事情に考慮し、ナイター競走も4月25日まで休止となった。

第3節 外国人選手の帰国

東日本大震災の影響で外国人選手の帰国が相次いだ。表5は震災を理由に退団した外国人選手の一覧である。

表 5 震災を理由に退団した外国人選手

競技	チーム	選手	国籍
サッカー	ベガルタ仙台	マルキーニョス	ブラジル
	モンテディオ山形	ウーゴ	ブラジル
	アルビレックス新潟	ジョンパウロ	ブラジル
	横浜Fマリノス	パステリアニーニ	アルゼンチン
	湘南ベルマーレ	ファビーニョ	ブラジル
野球	楽天イーグルス	モリーヨ	ドミニカ
	読売ジャイアンツ	バニスター（制限選手）	アメリカ
	横浜ベイスターズ	リーチ（制限選手）	アメリカ
バスケットボール	仙台 89ERS	全選手	
	新潟アルビレックス	ウィリー・ヴィーズリー	アメリカ
	富山グラウジーズ	2選手	アメリカ2名
	東京アパッチ	ロバート・スウィフト	アメリカ
	島根スサノオマジック	レイ・フィッシャー	アメリカ

第4節 被災地支援、復興計画とスポーツ

日本サッカー協会（JFA）、国際サッカー連盟（FIFA）が取り組む東日本大震災被災地復興支援のサッカー施設整備事業で、福島県では相馬市の相馬光陽サッカー場が支援先として正式に決まったことを、立谷秀清市長が2013年2月5日の記者会見で明らかにした。JFAはFIFAの復興支援金を活用して東北被災3県に1カ所ずつサッカーの交流拠点を整備しており、福島県では浜通り3市町から相馬市の相馬光陽サッカー場が最終候補に絞り込まれていた。JFA側が光陽サッカー場の既存グラウンドを改修し、天然芝3面（約4・5ヘクタール）と人工芝1面（約1・8ヘクタール）を整備し、事業費は1億5千万円規模となっている。市は整備・運用のため、サッカー場の一部約6・3ヘクタールを20年間、JFA側に無償で貸し出し、競技普及や技術向上のため、地域団体の練習場所、各種大会の会場などとして活用される見込みである。

宮城県ではMFA松島フットボールセンターが改修対象施設として選ばれ、人工芝のグラウンド改修、クラブハウス等の回収が行われた。MFA松島フットボールセンターは、宮城県松島町に位置し、今回の東日本大震災で、津波の被害は免れたものの、地震により人工芝グラウンドのアスファルト基層が割れる他、クラブハウス等の建物にも被害が及んだ。2011年7月末にアスファルトの基層改修を終了（約3,000万円）。2011年11月末にクラブハウスや更衣室他の改修事業に着手すると共に、2012年3月に体育館等の改修も行われた。同様に岩手県釜石市でも多目的複合施設が資金援助を受けて建設される予定である。

このようにFIFAからは総額640万ドルが被災した施設の改修や被災地における新たな施設の整備に使用されることを前提に資金が提供された。なお、これらの資金は、JFA発注のもと行われた事業の経費を、工事終了後、FIFAがその代金を負担するかたちで提供された。また、アディダス本社へのFIFAの働きかけにより、サッカーボール15000個、サッカーウェア15000着が被災した岩手・宮城・福島の3協会に対して提供された。2011年12月10日にMFA松島フットボールセンターをブラッターFIFA会長が訪れ、被災した子どもたちに直接支援物資を手渡した。加えて、UEFAからは50万ユーロの財政支援が行われた。

Jリーグ、Jクラブによる募金活動で集まったお金を日本赤十字社へ約5億1700万円寄付し、その他へ約9300万円寄付した。また、Jリーグからベガルタ仙台に2,000万円、鹿島アントラーズに2,000万円、水戸ホーリーホックに1,000万円の援助が行われた。

また、前述の2011年3月29日に行われた日本代表対Jリーグ選抜だけでなく、6月18日にはなでしこジャパン対韓国女子代表、8月19日にはなでしこジャパン対なでしこリーグ選抜、とチャリティーマッチが行われ、チケットやグッズ、募金活動で集まったお金を支

援金として被災地に寄付している。

2011 年 6 月に行われたキリンカップ 3 試合には被災者の児童、引率者を招待し、募金活動を行なった。

主な選手の義援金寄付としては、中田英寿が台湾でチャリティーイベントを行い 20 億円を集め、長谷部誠がユニセフを通じて著書の印税を全て寄付した。

アディダスジャパンからはサッカーグッズの提供が行われ、具体的にはサッカーシューズ約 15,000 足、代表レプリカ（シャツ、パンツ、ソックス等）約 13,000 点が青森・岩手・福島・宮城・茨城の 5 協会に対して提供された。また、アディダスジャパン協働サッカー教室を岩手、宮城、福島で行なった。

関連機関からのサポート等も多くあった。KIRIN グループからはサッカーファミリー復興支援金（JFA）への 1 億円の寄付があり、5,000 万円をサッカー施設の新設・改修に使用、5,000 万円をその他の JFA 復興支援活動に使用した。また、岩手・宮城・福島 FA に各 1,000 万円、青森・茨城 FA に各 500 万円被災県サッカー協会への活動資金寄付も行われた。加えて、岩手・宮城・福島県内の全ての小学校を対象として元日本代表によるサッカー教室（JFA・KIRIN スマイルフィールド）を実施した。2011 年から 2013 年までの 3 年間の実施を想定し、2012 年 3 月末時点で 84 校 12,096 名が参加している。

また、日本の公営競技は元来、収益金を第二次世界大戦後の復興に充てる目的で開催されるようになったが、東日本大震災後はそれぞれの競技で被災地支援活動が活発に行われている。競艇では、収益金から 125 億円を拠出し、日本モーターボート競走会が 10 億円の義援金を寄付し、競艇の収益金を元に公営・福祉事業を行なっている法人日本船舶振興会は死者・行方不明者 1 人にあたりに各 5 万円の見舞金、漁船を失った漁業者に無利息の緊急融資制度を設ける等の支援を行なっている。

競馬では JRA から 1 億円の義援金、レースに出走する馬は一頭につき 4 万 3 千円の義援金を捻出している。また、4 月 24 日から 6 月 26 日まで競馬場の最終レースの売上の 5%相当を寄付している。1995 年の阪神大震災時には約 24 億円を寄付している。

競輪はレースのほとんどに被災地復興競輪と銘打ちレースを開催し、募金活動やチャリティーイベント等、被災地支援を数多く行なっている。2013 年 3 月にはいわき平 G3 で S 級 S 班選手を中心とした「特別チャリティーレース」が開催される。参加する選手は賞金の大半を自主的に寄付することで合意しており、被災地の競輪場であるいわき平が第 1 号に選ばれた。この特別レースはいわき平以降にも数開催が計画されており、G3 に組み込まれる予定だ。2013 年 2 月までに 548,723,418 円を支援金として捻出している。加えて、被災地に所在する競輪場の一部では、被災者の受け入れに使用された。いわき平競輪場では 3 月 13 日よりいわき市災害対策本部の緊急生活物資の受け入

れ先として機能し、千葉競輪場と取手競輪場では 3 月 21 日より選手宿舎に被災者を受け入れた。

スタジオアリス女子オープンでは、賞金総額 6,000 万円を主催者の株式会社スタジオアリスが日本赤十字社を通じて全額寄付している。ゴルフの協会、及び団体では日本プロゴルフ協会が 500 万円、日本女子プロゴルフ協会が 500 万円、日本ゴルフ用品協会が 200 万円、PGM ホールディングス(ゴルフ場運営)が 2000 万円、アコーディア・ゴルフ(ゴルフ場運営)が 2000 万円の義援金を寄付している。プロゴルファー個人では、有村智恵が 1200 万円、石川遼が獲得賞金全額と 1 バードイーにつき 10 万円を寄付し約 1 億 3000 万円、崔京周が 10 万ドル、キム・ギョンテ、アン・ソンジュがそれぞれ 1000 万円、バッバ・ワトソン、大山志保がそれぞれ 500 万円、谷口徹、近藤共弘がそれぞれ 300 万円の義援金を寄付している。

プロ野球では 2012 年 3 月 10 日に「東日本大震災復興支援ベースボールマッチ supported by KONAMI」を行い、収益金の一部である総額 1 億円を義援金として寄付した。また、球団としては巨人は 3000 万円、16 選手の募金 366 万 8506 円、中日は選手会から 100 万円、ヤクルトは選手会から 100 万円、広島は年俸上位者が 100 万円ずつ、選手会から野球ウェアなど衣類、駅前募金などの義援金 281 万 9091 円、横浜と横浜スタジアムからは 2000 万円、日本ハムは 1 億円、と募金活動による約 2935 万円、選手会から 1000 万円、ソフトバンクは募金活動による 1272 万 7971 円、ロッテは選手会から携帯用カイロ 14 万 4 千枚、1000 万円、楽天は選手会から 1000 万円、ヤンキースから 10 万ドル(約 800 万円)が義援金として寄付された。また、主な野球選手個人としてはイチローが 1 億円、松坂大輔、ラミレスがそれぞれ 100 万ドル(約 8400 万円)、ダルビッシュ、松井秀喜がそれぞれ 5000 万円、金本知憲、パク・チャンホ(オリックス)、城島健司、藤川球児、稲葉篤紀がそれぞれ 1000 万円、三浦大輔、宮本慎也、杉内俊哉がそれぞれ 500 万円、黒田博樹、原辰徳、川上憲伸がそれぞれ 400 万円、和田一浩、森野将彦、浅尾拓也、吉見一起、谷繁元信、桧山進次郎、二岡智宏、武田久、田中賢介がそれぞれ 200 万円、渡辺俊介、中田翔、館山昌平、橋本将、武田勝、村田和哉、石井裕也、村田和哉がそれぞれ 100 万円、内川聖一が安打 1 本につき 1 万円を義援金として寄付した。

主なスポーツ協会、スポーツ団体の寄付としては日本相撲協会が 5000 万円、将棋連盟が 3000 万円、全日本柔道連盟が 300 万円、日本テニス協会が 300 万円、日本プロボクシング協会が 100 万円が義援金として寄付された。

b j リーグの仙台 89ERS は Kids Smile Project を立ち上げ、宮城県内の小中学生向

けのバスケットスクールや被災地の子どもたちをホームゲームに招待、被災地訪問活動、宮城県内の中学校にバスケットボールを届ける等、地域の子どもの絆を深めている。

アスリートを構成メンバーとして構成されているアスリートソサエティは、東日本大震災発生後、被災地支援プログラムとして「TEAM JAPAN トップアスリートスポーツ教室」を企画し、被災地の中学生、高校生を中心としたスポーツ教室の開催を通じて子どもたちの支援を行っている。著者はアスリートソサエティの理事の一人としてこの支援活動の企画運営、実施に関わっている。福島県相馬市での「TEAM JAPAN トップアスリートスポーツ教室」は、6月18日に第1回目を実施した。以後、相馬高校教員らの全面的な協力を得ながら、継続的に月1回開催している。そのほかに石巻でのバスケットボール教室やラグビー教室を実施した。

第5節 結果のまとめ

表6に上記の結果をまとめた。

表6 中止・延期したスポーツイベント

競技	中止	延期
女子ゴルフ	4大会	
サッカー	キリンカップ、ナビスコ杯	ACL、J1、J2
野球		セ・リーグ、パ・リーグ
フィギュアスケート	(東京での開催)	ISU フィギュア世界選手権
バレーボール	Wリーグ 6試合 Vリーグ 4日間	
マラソン	名古屋国際女子マラソン 長野マラソン 市民マラソン 59大会	市民マラソン 3大会
バスケットボール	JBL 3日間 bjリーグ	
競馬	福島、中山、阪神、小倉	
競輪	8競輪場	
競艇	24競艇場	

スタジアム及び練習場の被害に関しては、それらが使用不可となることにより、選手のコンディション維持、及びチームの強化を図ることができず、強化の面で損失があった。また、今後、スタジアムの修繕を行うために、日本スポーツ振興センターなどからの経済的支援を受けることが明らかになっているものの、スタジアム及び練習場に破損の見られたクラブには大きな経済的損失が残っていた。

女子プロゴルフでは、4大会中止となったことで強化の面、チケット収入、放映権料収入、スポンサー収入の資金獲得の面、テレビ放送が無くなったために普及の面で損失があった。

サッカーはリーグ戦に関しては、延期のためチケット、スポンサー、グッズ、放映権収入には大きな損失は無かった。また、ナビスコ杯では、大幅な試合数の減少によりチケット収入、会場内の物販・飲食物の収入の減少が考えられる。日本サッカー協会としても、キリンカップ2試合が中止となったことから、資金獲得、強化の両面における損失があったと言えるだろう。個別クラブに関しては、鹿島アントラーズはホームゲームを国立競技場で行うことで、大都市圏のファンを多く動員できることから、普及や資金獲得の面でのメリットが見込まれる。

プロ野球では、開幕戦を含め4月中は読売ジャイアンツが東京ドームよりも収容人数の少ない地方スタジアムで試合をすることとなったため、多くのファンが観戦できなくなることによる普及の面での損失や、チケット収入や会場内物販収入などの資金獲得の面での損失があった。一方で、普及の面に関しては、新たなファン層拡大に繋がるというメリットもあるだろう。

フィギュアスケートでは、チケット収入、会場内物販収入等の資金獲得の面での損失、会場で観戦することができなくなったことによる普及面の損失があった。

バレーボールでは、ワールドリーグ中止の影響により、テレビ放送、会場で観戦できなくなることによる普及の面での損失、チケット収入、放映権料収入、会場内物販等の資金獲得の面で損失、ホームアドバンテージを失うことで強化・勝利の面での損失があった。また、Vリーグの中止により、順位の不確定、資金獲得、普及の面で損失があった。

女子マラソンでは、資金獲得、普及の面での影響だけでなく、代表選考レースを一つに絞りきれないなど強化の面での影響が出た。また、市民マラソンの中止・延期が相次いだため、強化、普及、資金獲得の面で損失があった。

バスケットボールでは、普及、資金獲得の面での損失だけでなく、JBLがシーズンを途中で中止したことによって順位が不確定となり、強化の面での損失があった。また、bjリーグでは外国人選手の帰国が相次ぎ、強化の面での損失、資金獲得、普及の面での損失があった。

競馬では、開催が中止、場外販売の場の減少により大きな資金獲得面での損失、強化の面、普及の面での損失があった。

競艇や競輪ではレースが相次いで中止となり、資金獲得の面で大きな損失、強化の面、普及の面での大きな損失があった。

以上より、東日本大震災のスポーツへの影響として、スポーツイベントの中止・延期や代表選考が不可能になることによる「強化」の面での影響、テレビ放送の中止や観戦が不可能になることによる「普及」の面での影響、そしてスポンサー収入やチケット収入の減少などによる「資金獲得」の面での影響があった。

第4章 考察

東日本大震災はスポーツ界へも様々な影響があることが結果より明らかとなった。スポーツ界への影響について、トリプルミッションの概念に沿って考察する。

第1節 普及

まず、普及に関して本研究で取り扱った10種類のスポーツのうち、オフシーズンであった野球を除く9種目が影響を受けていた。特に震災発生時期とメインシーズンが重なった女子ゴルフ、サッカー、市民マラソン、バスケットボール、競馬、競輪、競艇では競技が中止となり普及面で大きな影響があった。加えて、日本国内で国際大会を予定していたサッカー男子日本代表、フィギュアスケート、バレーボールでは、国内で観戦する機会を失い、大きな損害があったと考えられる。テレビ放送の中止や観戦が不可能になることによる「普及」の面での影響があったのだ。

しかしながら、震災発生時期、日本の多くのスポーツはオフシーズン、もしくはシーズン終盤でもあり、直接支援に駆けつけることができた選手やチームも多く、被災地の人は支援に来た選手をこれまで以上に応援するようになった。加えて、前述のサッカー男子日本代表のチャリティーマッチやなでしこジャパンのワールドカップ優勝とインタビューでの受け答え、海外クラブのサッカー選手たちのからのメッセージ等のように被災地の方々を勇気付けると同時に、スポーツの発信力を活かして被災地以外の人々の意識を被災地に向けることに成功している。スポーツの価値を再認識する機会となったのではないか。これは普及の面での一定の効果といえる。

第2節 資金

競技団体、クラブ単位での資金獲得の面では、メディアでの取り上げ減る、企業の広告費減る、等結果資金獲得において非常に厳しい状況となった。バスケットボールbjリーグでは活動を休止せざるを得ないチームが出る事態にも陥った。スポンサー収入やチケット収入の減少などによる「資金獲得」の面での影響があったと考えられる。

しかし一方で、スポーツがチャリティを通して集めた金額も大きかった。また、スポーツ用品メーカーやスポーツ量販店が義援金だけでなくメーカーの商品を救援物資として送っていた。これらの活動はスポーツが社会に対して果たす役割として責務であり、大変重要なことだと考えられる。

第3節 勝利

外国人選手の帰国、スポーツイベントの中止・延期や代表選考が不可能になることによる「強化」の面での大きな影響があった。しかし、アスリートたちは被災地の状況を目の当たりにし、これまでよりも更に強い精神力が生まれたことで震災後に競技の好成績に繋がれていると考えられる。なでしこジャパンのワールドカップ優勝、ロンドンオリンピックでの日本のメダル獲得数は史上最多となり、継続的に被災地支援を行なっている競輪選手の長塚智広氏は現役生活 14 年目にして初めての G1 レース制覇、2 年連続のグランプリレース出場を果たしている。

第4節 スポーツの力

東日本大震災から間もなく 2 年が経とうとしている。先行き不透明な放射能への恐れ、犠牲者への断ちがたい思い、進まぬ生活再建など大震災が残した爪痕はいまだに消えていない。日本がそういった状況下であるからこそ、スポーツの力による復興支援も重要なものとなるのではないか。10 万人以上の死者・行方不明者を出した 89 年前の関東大震災の際、講道館柔道の創設者・嘉納治五郎は「災い転じて福とせよ」と、震災からわずか 1 ヶ月後に稽古を再開した。これはスポーツの重要性を認識していたからこそその言動であったのではないか。今回の調査でスポーツによる義援金募集、スポーツによる被災地復興の例が多く確認された。

テレビ、新聞等による報道では被災地でのアスリートの支援について震災直後から記事数が大きく増えていた。しかし、その後、2011 年 3 月をピークにそのあとは減少の一途をたどっており、現在は被災地支援に関する報道を目にすることはほとんどなくなってしまっている。アスリートやスポーツ選手の支援活動が打ち切られたとは言い切れないが、継続性は不明である。トップアスリートが継続的に支援することで無力感の軽減に繋がるということが長塚（2012）から、示唆されている。アスリートの継続的な支援活動には意義があるのだ。

東日本大震災により未曾有の人的及び経済的被害が発生したが、それだけではない。人々は多大な被害による喪失感や、大震災を前にした無力感等の精神的被害に苛まれている。長期間の避難生活のストレスや余震の恐怖、復興への不安等、精神的ストレスは計り知れない。被災地支援の中でもメンタル面のケアは非常に重要であり、スポーツが力になれることはアスリートソサエティの報告から証明されている。継続的な被災地支援は、社会の一員であるアスリートにとって社会的な責務であると考ええる。

スポーツ界全体がお金・物資・人など様々な面から復興支援を行うこと、そしてスポー

ツの発信力を活かして被災者以外の人々の意識を被災地へ向けることが大切だと考える。
この論文を通して、東日本大震災の被害の大きさを知り、スポーツの力による復興支援について考える機会となれば幸いである。

結論

本研究は、東日本大震災がスポーツイベントの中止及び延期事例を整理し、その際にスポーツが被った損害について明らかにしたものである。日本政府は3月23日に、3月11日の東日本大震災で損壊した設備や道路などの直接的な被害額を16兆～25兆円とする試算をまとめた。これは、阪神・淡路大震災の約10兆円を上回る戦後最大の自然災害となる。福島第1原子力発電所の事故や計画停電の影響を含んでおらず、被害額はさらに膨らむ見通しだ。また、計画停電、自粛ムードの影響もあり経済活動が停滞することも予想されている。

一方、日本のスポーツにおいては、テレビ、新聞、雑誌等のメディアによって、全国各地の様々なスポーツイベントの中止及び延期が報道されている。スポーツイベントの中止・延期は、各競技団体の収入減少やスポーツチームの経営悪化だけでなく、各スポーツ競技の普及や強化の観点からも悪影響があるのではないかと考えられる。そこで、東日本大震災による試合、代表選考会、記録会などを含むスポーツイベントの中止及び延期事例を整理し、その際にスポーツが被った損害について明らかにすることを目的とする研究を行なった。

研究目的を達成するため、文献及び記事調査、また各競技団体のホームページからの情報収集によって、中止または延期になったスポーツイベントを明らかにし、その影響の分類と推定被害額を明らかにした。女子プロゴルフでは、中止となった4大会合わせて6万人近い観客が見込まれ、チケット収入は1億6239万9千円の損失が考えられる。このように、サッカー、野球、フィギュアスケート、バレーボール、マラソン、バスケットボール、競馬、競輪、競艇にも同じように大きな影響があることが分かった。

結果より、東日本大震災のスポーツへの影響として、スポーツイベントの中止・延期や代表選考が不可能になることによる「強化」の面での影響、テレビ放送の中止や観戦が不可能になることによる「普及」の面での影響、そしてスポンサー収入やチケット収入の減少などによる「資金獲得」の面での影響があると考察することができた。一方で直接支援に駆けつけることができた選手やチームも多く、被災地の人は支援に来た選手をこれまで以上に応援するようになり、前述のサッカー男子日本代表のチャリティーマッチやなでしこジャパンのワールドカップ優勝とインタビューでの受け答え、海外クラブのサッカー選手たちのからのメッセージ等のように被災地の方々を勇気付けると同時に、スポーツの発信力を活かして被災地以外の人々の意識を被災地に向けることに成功している。また、アスリートたちは被災地の状況を目の当たりにし、これまでよりも更に強い精神力が生まれたことで震災後に競技の好成績に繋がっていると考えられる。

今回の未曾有の大震災でスポーツを含め日本全体が損害を受けた。そういった中で、スポーツ界全体がお金・物資・人など様々な面から復興支援を行うこと、そしてスポーツの発信力を活かして被災者以外の人々の意識を被災地へ向けることが大切だと考え

る。本研究により、東日本大震災による中止及び延期になったスポーツイベントの事例、スポーツが被った損害が明らかになり、スポーツ団体は東日本大震災のような大規模自然災害時に、具体的にどのような被害が出るのかを把握することができ、それに対する事前の対策を講じることができる。加えて、東日本大震災の被害の大きさを知ること、スポーツの力による復興支援について考える機会となれば幸いである。

謝辞

本研究を行うにあたり、研究指導教員である平田竹男教授には多大なご指導をいただきました。私にとって平田教授のもとで学んだ時間はかけがえのない宝物です。また、平田教授からかけて頂いた言葉は人生観を大きく変えてくださりました。時には厳しく、時には温かく、勉強に関する事だけでなく、フットサルの事や、普段の立ち振舞等、根気強くご指導いただいたことに、心から感謝申し上げます。また、フットサルをスペインでプレーしたいという身勝手な夢を後押ししてくださり、学生生活の中で、多くの貴重な経験を積む機会を与えて下さったことを本当に有難く思います。

副査をお引受けいただいた中村好男教授、矢本成恒客員教授をはじめ、早稲田大学スポーツ科学研究科で指導くださった先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

また、共に勉学に勤しんだ平田研究室社会人1年制コースの第5期生、第6期生、第7期生の皆様には、非常にお世話になりました。様々な分野でご活躍される方々と過ごした日々は毎日が刺激的なものでした。

そして、2年制コースの先輩である本多大氏、畔蒜洋平氏、兼清文彦氏、佐藤佑樹氏、鈴木直樹氏、間仁田康祐氏には、様々なことを教わりました。後輩である三澤翼君、学部ゼミ生にも大変お世話になりました。皆様の協力と理解があったからこそ、大学院生活とフットサルの両立を実現することができました。心よりの感謝の意を申し上げます。

そして、被災地の早期の復興を祈念いたしまして、本稿を締めくくらせて頂きます。

参考文献

- 1) 佐伯琢磨;地震により企業が受ける間接的経済損失評価のための考察, 地域安全学会地域安全学会梗概集, Vol.17, pp.75-78, 2005
- 2) 土屋哲、他;巨大地震災害時の交通施設の機能低下に起因する社会経済損失の計量化に関する研究, 京都大学防災研究所, 京都大学防災研究所年報 B, pp.65-57, 2004
- 3) 高橋純一、他;1995 年兵庫県南部地震における東灘区建物の損害額評価, 社団法人日本建築学会, 学術講演梗概集 F-1, pp.1259-1260, 2000
- 4) Eguchi, T., et. al.; Direct Economic Losses in the Northridge Earthquake: A Three - Year Post - Event Perspective, Earthquake Spectra 14, pp.245-264, 1998
- 5) 日本女子プロゴルフ協会ホームページ, <http://www.lpga.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 6) SAMURAI BLUE ホームページ, <http://samuraiblue.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 7) J リーグ公式サイト, <http://www.j-league.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 8) 日本サッカー協会公式サイト, <http://www.jfa.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 9) 鹿島アントラーズオフィシャルサイト, <http://www.so-net.ne.jp/antlers/>, 2011 年 4 月閲覧
- 10) 水戸ホーリーホックオフィシャルサイト, <http://www.mito-hollyhock.net/>, 2011 年 4 月閲覧
- 11) ベガルタ仙台オフィシャルサイト, <http://www.vegalta.co.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 12) 日本野球機構オフィシャルサイト, <http://www.npb.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 13) F リーグ公式サイト, <http://www.fleague.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 14) 日本スケート連盟オフィシャルサイト, <http://www.skatingjapan.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 15) 日本バレーボール協会, <http://www.jva.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 16) RUNNET, <http://runnet.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 17) bj リーグオフィシャルサイト, <http://www.bj-league.com/bj/Top.do>, 2011 年 4 月閲覧
- 18) JBL オフィシャルサイト, <http://www.jbl.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 19) JRA オフィシャルサイト, <http://www.jra.go.jp/sitemap/index.html>, 2011 年 4 月閲覧
- 20) 競輪オフィシャルウェブサイト, <http://keirin.jp/pc/dfw/dataplaza/guest/>, 2011 年 4 月閲覧
- 21) 競艇オフィシャルウェブサイト, <http://www.kyotei.or.jp/>, 2011 年 4 月閲覧
- 22) 内閣府ホームページ, <http://www.bousai.go.jp/oshirase/h23/110624-1kisyu.pdf> ,

2012 年 12 月閲覧

23) 警視庁ホームページ, <http://www.npa.go.jp/archive/keibi/biki/index.htm> ,

2012 年 12 月閲覧